

令和5年度 開成町子ども読書活動のアンケートの結果をお知らせします。



## 開成町子ども読書活動推進委員会

令和5年11月(11/1~11/14)、開成町の小学2年生184名(回答150名、回答率81.5%)、5年生188名(回答169名、回答率89.5%)、中学2年生171名(回答153名、回答率89.9%)を対象として、読書活動に関するアンケートを実施しました。結果がまとまりましたのでお知らせします。

なお、今年度のアンケートも、第四次開成町子ども読書活動推進計画に掲げた4つの目標への取組を中心に設問し、タブレットにて実施しました。結果を分析して次年度以降の取組につなげていきたいと考えます。

### 第四次開成町子ども読書活動推進計画

スローガン「読書好きな すてきな人になろう」

《4つの目標》

- 1 読書好きな子の割合アップ
- 2 不読率を下げる
- 3 一日10分以上の読書を
- 4 ファミリー読書デーの認知度アップ

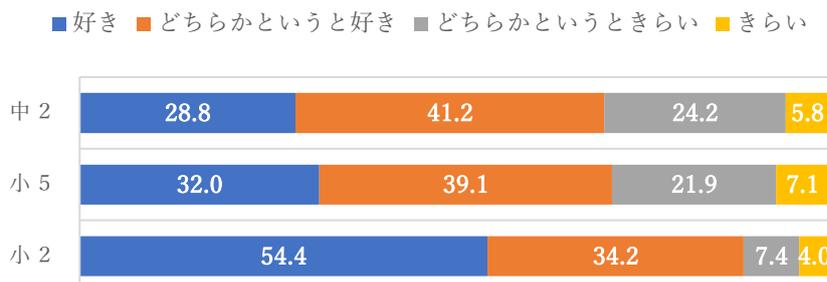
※「本を読むこと」とは、歴史マンガ・学習マンガや電子ブック等を読むことを含む

### 【目標1；読書好きな子の割合をアップ】

開成町第四次計画の数値目標  
R6まで小90%、中80%

#### 設問1 読書は好きですか

#### 令和5年度



読書好きな子の割合は、文科省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究(H30)」の全国平均、小学生73.3%、中学生67.3%と比べると、開成町は読書好きな子が多いことがわかります。

また、今年度の中学2年生は3年前の調査(5年生の時)より2%微増(68.0%→70.0%)となりましたが、小学5年生は前回調査(2年生の時)より低下傾向(72.0%→71.1%)が見られます。読書好きにするための効果的、継続的な支援や環境が必要です。

#### 【補足資料1】

令和元年度～令和5年度までの読書が好きな子の割合の推移

※好き+どちらかと言えば好きな子の割合 (単位%)

	R1	R2	R3	R4	R5
中学2年生	64.2	62.0	88.3	75.0	70.0
小学5年生	69.6	68.0	90.5	86.9	71.1
小学2年生	82.8	72.0	85.0	96.7	88.6

## 【補足資料2】

令和5年度の全国学力・学習状況調査、県と国との比較

(単位%)

	小6	中3
開成町	74.6	54.9
神奈川県	69.7	62.2
全国	71.8	66.0

毎年行っている全国学力・学習状況調査を参考にして、開成町と神奈川県、全国の平均を比べてみました。

「読書が好きな子」の項目では、小学生(6年生)は、県や国の平均より高い結果となりましたが、中学生(3年生)は低い結果となっています。

## 【目標2；不読率を下げる】

設問2 1か月で何冊本を読みますか

開成町第四次計画の数値目標  
R6まで小4.7%、中11.2%

▼令和5年度の1冊も読まない子の割合(単位%)

	小2	小5	中2
1 読まない	7.4	23.7	29.4
2 1～2冊	21.5	28.4	42.5
3 3～4冊	12.8	20.7	13.1
4 5～9冊	22.1	9.5	7.8
5 10～19冊	11.4	11.2	3.3
6 20冊以上	24.8	6.5	3.9

▼令和3・4・5年度の1冊も読まない子の割合(単位%)

	小2	小5	中2
R5	7.4	23.7	29.4
R4	4.1	10.8	5.0
R3	8.5	4.5	13.0

## 【補足資料3】2023年(令和5年)

学校読書調査(全国学校図書館協議会調べ)

《全国の1か月に1冊も読まない子どもの割合》

- 小学生 7.0%
- 中学生 13.1%
- 高校生 43.5%

不読率

今年度の調査対象の学年として、小5と中2の不読率が20%を大きく超えてしまいました。第四次計画の数値目標からも隔たりができており、今後の対応策が必要です。

日々の生活の中に、読書が自然と身につくような生活習慣を位置づけていきたいです。

設問3 設問2で0冊だった人に聞きます。本を読まないのは、どうしてですか

【いくつでも】(単位%)

	小2	小5	中2
1 読みたい本がない	22.2	45.8	44.7
2 本を読む時間がない	22.2	22.9	38.2
3 本を読むのが好きではない	33.3	37.5	29.8
4 外で遊びたい	33.3	27.1	14.9
5 塾・水泳等の習い事に行く	11.1	20.8	34.0

本を読まない子の多くが「読みたい本がない」「本を読む時間がない」と答えています。その根底にあるのは「本を読むのが好きではない」ことだと考えられます。読書好きな子を育てる工夫が求められています。

設問4 どうしたら本を読めるようになると思いますか 【いくつでも】(単位%)

	小2	小5	中2
1 学習マンガをおく	25.0	32.4	32.3
2 図書室や町民センターでいろいろな本の紹介をする	41.4	20.0	12.8
3 友だちと一緒に読む時間をもつ	42.9	45.5	38.3
4 おすすめベスト3などを教える	46.4	29.7	25.6
5 本を読む時間をもつ	50.0	33.1	36.8
6 イベント(ビブリオバトル等)を行う	28.8	11.0	6.8

「どうしたら本を読めるようになるか」という問いに対し、小中学生共に「本を読む時間設定」を挙げています。各学校においては、朝の時間等に「読書タイム」を設定し、子どもたちが読書に親しむ時間を作っていますが、その重要性に子どもたちも気づいているようです。

▼様々な取り組みの例▼

- 1 ビブリオバトル 発表者が読んでおもしろいと思った本を一人 5 分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を 2～3分で行う。発表が終わったら、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決める。
- 2 ブックトーク 本への興味がわくよう、あるテーマに沿って関連付けて、工夫を凝らしながら、第三者に複数の本を紹介する。本と出会うきっかけになり、様々なジャンルの本を知るきっかけともなる。
- 3 POP コンクール POP を作成し、その中から優秀な POP を決める取組。
- 4 レビューブック 本の紹介文をレビューといい、そのレビューをまとめたものをレビューブックという。レビューブックを友だちに見せることでそれを見た子どもが今まで読んだことのない本に出会う機会へとつながる。
- 5 ピッチトーク テーマを決めて、各自が読んだ本を短くプレゼンする取組。
- 6 アニマシオン 子どもたちにより行われる読書指導のひとつ。読書の楽しさを伝え、自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等、様々な形で行われる。
- 7 その他
  - ・リテラチャー・サークル      ・ペア読書      ・読み聞かせ
  - ・ストーリーテリング      など

## 【目標3；一日10分以上の読書を】

### 設問5 平日（月曜日から金曜日）に、10分以上読書をしますか

【令和3～5年度読書アンケートより】（単位%）

10分以上読書する	小2	小5	中2
<b>R5年度</b>	<b>38.4</b>	<b>46.1</b>	<b>40.5</b>
R4年度	77.6	70.0	64.0
R3年度	61.7	85.9	79.0

開成町第四次計画の数値目標  
R6まで小76.7%、中65.5%

1日に10分以上読書する小学生や中学生の割合は、前年度までと比較して顕著に減少していることがわかります。

その要因として、コロナ禍を過ぎ、読書等を通じて屋内で静かに過ごすことよりも、友だちと一緒に外遊びをする機会が増えたこと等、生活様式の変化が考えられます。

【令和5年度全国学力・学習状況調査より】（単位%）

	小学生（6年）	中学生（3年）
<b>開成町</b>	<b>61.1</b>	<b>43.8</b>
神奈川県	60.3	44.6
全国	60.0	49.4

### 設問6 ふだん、学校の図書室を利用しますか

（単位%）

図書室を利用する	小2	小5	中2
<b>R5年度</b>	<b>75.5</b>	<b>50.9</b>	<b>15.0</b>
R4年度	79.4	59.1	13.0
R3年度	84.0	80.8	12.6

令和3年度以降、学校の図書室利用者の割合は、小学生は2年生、5年生共に減少傾向ですが、中学生の利用者の割合は徐々に増加しています。

### 設問7 「利用する」と答えた人に聞きます

（1）1週間にどのくらい利用しますか。（単位%）

	小2	小5	中2
1回	48.8	70.4	72.7
2回	26.4	14.8	18.2
3回以上	24.8	14.8	9.1

1週間に1回程度、図書室を利用している小中学生の割合が高いことがわかります。

小学2年生は、1冊の本のページが少なかったり、絵本を読んだりするため、利用回数の割合が高くなっていると考えられます。

（2）図書室を利用する目的は何ですか。

【いくつでも】（単位%）

	小2	小5	中2
本を借りるため	64.6	67.2	52.8
本を読むため	69.2	52.3	54.7
調べ学習をするため	33.8	28.9	37.7

図書室の利用目的は、「本を借りるため」「本を読むため」であることは言うまでもありませんが、昨年度までと比較して、「調べ学習をするため」の割合が高くなっています。

**補足資料** 教育委員会では、毎年、各学校で図書個人カードをもとに調査した学校図書室の利用状況をまとめています。

① 年間貸出数 ※開成町教育委員会調べ R5は3月末調査予定(単位:冊)

	H30	R元	R2	R3	R4
小学生	39,492	38,939	32,168	31,051	30,419
中学生	1,533	1,771	699	1,021	1,520

② 一人当たりの貸出数 (単位:冊)

	H30	R元	R2	R3	R4
小学生	36.3	35.1	28.2	26.7	26.2
中学生	3.0	3.5	1.4	2.0	3.0

③ 年間貸出数0冊の子の割合 (単位:%)

	H30	R元	R2	R3	R4
小学生	0.8	1.9	6.9	7.5	3.8
中学生	73.9	59.1	82.9	72.4	58.8

令和3年度・4年度は、コロナ禍のために、令和2年度に引き続き利用状況が低くなっています。しかし、各学校では次のような工夫をし、読書活動の推進を図ってきました。

- ① 図書室の使用割り当てを作り、学級単位に週に一度本を借りる時間を確保した。学級単位で借りることで、自分から図書室に行かなかった子にとって本を借りるきっかけとなった。
- ② 中休みの時間を使って全学年を対象に本の貸し出しを行った。入室人数を数えながら必要に応じて入場を規制しながら安全に貸し出しを行った。
- ③ 図書室の入室や貸出冊数を制限しているため、学級文庫を充実させた。
- ④ 感染症対策のため、入室できる学級を指定し、密にならないよう貸出を行った。
- ⑤ 中学校では、感染症対策を考慮に入れつつ、自習スペースとしての開放を呼びかけたことで、利用者は増えた。

コロナ禍の中にあっても、各学校の様々な取組が行われていることがよくわかりました。

**設問8 問6で「利用しない」と答えた人に聞きます。利用しない理由は何ですか**

【いくつでも】(単位%)

	小2	小5	中2
1 読みたい本がないから	38.5	56.3	41.5
2 図書室が開いていないから	20.5	9.2	11.5
3 図書室が遠いから	5.1	14.9	21.5
4 新しい本がないから	12.8	11.5	5.4
5 本のえらび方がわからないから	10.3	12.6	6.9
6 図書室に行く時間がないから	23.1	32.2	58.5
7 本を読むのが好きではないから	25.6	24.1	19.2

この設問は、小学2年生 150 名中 36 名(24.5%)、小学5年生 169 名中 82 名(49.1%)、中学2年生 153 名中 130 名(85%)の学校図書室を利用しない人に聞いた結果です。

図書室を利用しない理由としては、小中学生共に、「読みたい本がないから」「図書室に行く時間がないから」「本を読むのが好きではないから」を多く挙げています。

コロナ禍にあって、やむを得ず貸し出し制限や入室制限もありましたが、制限が解除された今、子どもたちの思いや願いを尊重した様々な工夫を行い、読書活動推進に向けた取り組みが求められます。

**設問9 この1年間に町民センター図書室に行ったことがありますか**

▼「ある」と答えた人の割合と人数

	小2	小5	中2
割合 (%)	61.5	47.6	29.4
人数 (人)	91	80	45

小学生は約半数の子どもたちが町民センターの図書室に行っています。特に、小学2年生が増えました。(前年度48.0%→61.5%)中学2年生は、前年度(31.0%)に引き続き30%程度の子どもたちが行っています。

**設問10 「ある」と答えた人に聞きます。町民センター図書室にどのくらい行きますか**

▼町民センターに行く頻度の割合(単位%)と人数(人)

	小2		小5		中2	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
1 ほとんど毎日	5.4	5	1.1	1	0.0	0
2 週に1回くらい	16.3	15	3.4	3	4.3	2
3 2週間に1回	5.4	5	17.2	15	6.5	3
4 1か月に1回	38.0	35	23.0	20	6.5	3
5 1年に何回か	28.3	26	39.1	34	71.7	33

町民センターに行く頻度は、学年が下がるに連れて高くなり、小学2年生では週に1回通う子が16.3%、1か月に1回通う子が38.0%います。全体としては1年に何回か行く子の割合が高くなっています。

## 県・国と比較すると

ここまでは学校図書室や町民センター図書室の利用について調べてみましたが、次に、県や国と比較し、開成町の子どもたちの図書室の利用について考えてみます。

下の補足資料1は、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果です。なお、令和2～4年度にはこの調査内容は行われていませんでしたが、令和5年度は調査が行われましたので、それまでの数値とともに結果をお伝えします。

### 補足資料1

#### 学校図書館や地域の図書館に月1回以上行く児童・生徒の割合

※文部科学省「全国学力・学習状況調査」(単位%)

		H27	H28	H29	H30	R元	R2~4	R5
小学生	開成町	32.6	33.5	34.3	設問なし	57.2	設問なし	36.5
	神奈川県	29.5	30.9	29.4		31.3		26.9
	全国	40.7	40.3	38.6		40.5		32.9
中学生	開成町	16.9	6.2	11.1	設問なし	14.6	設問なし	14.5
	神奈川県	13.9	14.3	15.1		15.7		14.0
	全国	19.6	18.6	19.4		20.4		18.5

#### 開成町の小学生は県・国、中学生は県の割合を上回っています

令和5年度の学校図書館や地域の図書館に月に1回以上行く児童・生徒の割合は、小学生は36.5%で、県と全国の割合を上回りました。中学生は14.5%で、県平均を上回っています。

### 補足資料2

#### 町民センター図書室の年間貸出冊数の推移

※町民センター図書室調べ(単位:冊)

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5・12月まで
小学生	3,832	4,472	4,230	2,763	4,362	6,010	4,928
中学生	377	342	362	226	330	371	328

\*R5年度は11月より町民センター改修工事のため、11～12月は図書室閉鎖

### 補足資料3

#### 町民センター図書室の年間貸出人数の推移

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5・12月まで
小学生	1,226	1,373	1,280	822	1,269	1,796	1,247
中学生	132	111	127	70	110	118	97

\*R5年度は11月より町民センター改修工事のため、11～12月は図書室閉鎖

### 設問 11 町民センター図書室で、インターネット図書システムを利用したことがありますか

(単位%)

	小2	小5	中2
1 ある	21.9	19.3	8.6

**OPAC**  
 Online Public Access Catalog  
 オンライン蔵書目録検索システム

正式には、「オンライン蔵書目録検索システム」(Online Public Access Catalog)という名称です。令和3年6月から図書室の専用ホームページから、図書のインターネット予約ができるようになりました。また、インターネット上から蔵書の検索ができます。全国の図書館から楽しく本を検索できるサービスもあります。センター図書室に出かける前に話題の本があるかどうかチェックすることもできます。図書除菌機も導入し、貸出手続きを済ませた図書の除菌ができます。使用するためには事前にパスワードの登録が必要ですが、係員が詳しく教えてくれますので、保護者とともセンター図書室に行ってみることから始めたいですね。

### 設問 12 キッズライブラリーを利用したことがありますか

(単位%)

	小2	小5	中2
1 ある	34.9	44.2	7.9

子どもを対象にした「キッズライブラリー」が令和4年1月にオープンしました。赤ちゃんから児童まで親子でゆったり語らいながら本の世界を楽しめる空間となっています。現在 6,611 冊の蔵書があります。

### 設問 13 キッズライブラリーを利用した人に聞きます

(1)今まで何回くらい利用しましたか (単位%)

	小2	小5	中2
1 1～5回	51.5	61.8	83.3
2 6～10回	12.1	25.0	16.7
3 10以上	36.4	13.2	0.0

コロナ禍以降も多くの小中学生が利用していることがわかりました。

町民センター改修工事のため、キッズライブラリーが11月よりしばらくの間使用できないことは残念です。

(2)キッズライブラリーを利用してよかったことを聞かせてください

【いくつでも】(単位%)

	小2	小5	中2
1 本が整理されていて読みやすい	51.4	43.4	33.3
2 すわって読むことができる	44.4	49.4	44.4
3 読みたい本をすぐにさがせる	45.8	39.8	22.2
4 おいてあるものがかわいい	20.8	12.0	16.7
5 本の種類が多い	50.0	45.8	33.3
6 よかったことはない	23.6	13.3	22.2

対象を赤ちゃんや幼児、児童等に絞ったことにより、キッズライブラリーが子どもたちにとって活用しやすい環境であることを実感していることがわかりました。

## 【目標4；ファミリー読書デーの認知度アップ】

### 設問14 開成町の「ファミリー読書デー」について聞きます

(1)開成町の「ファミリー読書デー」は、毎月1日であることを知っていますか

開成町第四次計画の数値目標  
R6まで小80%、中70%

#### ▼令和2年度～5年度の「知っている子の割合」の推移(単位%)

	小2	小5	中2
令和5年度	28.6	53.3	52.0
令和4年度	30.7	65.7	40.0
令和3年度	18.7	35.2	23.1
令和2年度	9.6	12.3	15.4

「ファミリー読書デー啓発ポスター」や図書だより等の啓発活動に取り組むことにより、「毎月1日がファミリー読書デー」であることを知っている小中学生の割合は、年々高くなっていることがわかります。

#### ▼ポスター募集数の推移

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集数	18	19	20	64	77	78

(2) 開成町では、ファミリー読書デーには、家族みんなで本を読もうという運動をしています。その日に取り組んだことがあれば教えてください。(単位%)

	小2	小5	中2
1 家族でいっしょに読書をした	19.0	8.4	1.5
2 家族みんなで本を読もうと声をかけあった	5.0	3.9	0.8
3 放送や帰りの会を利用してファミリー読書の日であることを知らせた(伝えた)	4.1	5.8	6.0
4 学校図書室やセンター図書室で本を借りた	9.9	10.4	3.0
5 友だちや家族と図書室などに読書に出かけた	5.8	9.7	0.8
6 何も取り組まなかった	71.1	74.7	91.0

(3)何も取り組まなかった人は、その理由を教えてください。(単位%)

	小2	小5	中2
1 ファミリー読書をする必要を感じない	6.8	7.6	13.0
2 ファミリー読書をする理由がわからない	9.3	7.6	10.1
3 時間がない	16.9	29.0	29.0
4 ファミリー読書デーを知らない	52.5	22.9	22.5
5 うっかり忘れてしまった	12.7	22.9	20.3

「毎月1日がファミリー読書デー」ということは浸透しつつあるが、「何も取り組まなかった」児童生徒の割合は、昨年度と比べて、小学2年生が44.2%→71.1%、小学5年生が68.5%→74.7%、中学2年生が89.8%→91.0%と増えており、ファミリー読書デーに関心をもっていない現状が見て取れます。ファミリー読書デーの意味やそのよさについて知らせ、取り組んでみたいという思いを育てていく必要があります。

## 電子書籍について

### 設問 15 どのくらい電子書せきを使っていますか

(単位%と人数)

	小2		小5		中2	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
1 たまに電子書せきを使って読書をする	33.6	50	32.5	54	24.8	38
2 読書はほとんど電子書せき	2.7	4	6.0	10	5.9	9
3 マンガは電子書せき、そのほかは紙	2.7	4	6.6	11	15.0	23
4 電子書せきは使わない	60.4	90	51.2	85	51.6	79

### 設問 16 あなたにとって、紙の本と電子書せきを比べると、どちらが身近だと思いますか

【令和5年度】 (単位%)

	小2	小5	中2
紙の本	91.0	86.7	69.7
電子書せき	9.0	13.3	30.3

【令和4年度】 (単位%)

	小2	小5	中2
紙の本	91.7	87.2	69.0
電子書せき	8.3	12.8	31.0

電子書籍に対する小中学生の使用頻度は、徐々に増えつつあります。前年度と比較すると、「たまに電子書籍を使って読書する」は、小学2年生が32.0%→33.6%、小学5年生が24.0%→32.5%、中学2年生が17.0%→24.8%と増えています。

しかし、紙の本と電子書籍を比較すると、紙の本の方がより身近に感じている小中学生の割合は依然として高いことがわかります。

### 設問 17 読書は、みんなの心をゆたかにするものです。多くの本を楽しむためには、

どのようにすればよいと思いますか

【いくつでも】(単位%)

	小2	小5	中2
1 小さいころから読み聞かせなどをして本の楽しさを教える	56.8	43.7	49.7
2 小さいころから図書室や本屋などに行く	47.3	39.5	37.4
3 家族で読書に親しむ	46.6	30.5	20.4
4 学校で読書の時間を決める	39.2	44.3	32.7
5 図書室を利用しやすくする	41.2	48.5	37.4
6 学校でボランティアの人たちに読み聞かせをしていただく	30.4	21.0	12.2
7 図書委員会が朝会などで本の紹介をする	34.5	24.6	13.6
8 電子書せきを図書室や町民センターに置く	21.8	22.8	16.3

読書好きになるための小中学生自らの思いは、昨年度までと同様、「1 小さいころから読み聞かせなどをして…」 「2 小さいころから図書室や…」を選んでるように、赤ちゃんや園児等の幼い頃より、読み聞かせや絵本等に親しむ時間の設定などが大事であると考えていることがわかります。

## まとめ

### 1 4つの目標に対する振り返り

今回のアンケートでは、第四次計画の目標の具現化を意識しながら、現状を分析しました。各設問に関するコメントで、おおよそのことは触れていますので、4つの目標について簡単に振り返ります。

#### 目標1 読書好きな子の割合アップ

- 開成町の小中学生は、読書好きな子が全国や県と比べて比較的多いことがわかりました。(小学2年生 88.6%、小学5年生 71.1%、中学2年生 70.0%)しかし、第四次計画の目標としている数値(読書好きな子の割合;小学生 90%、中学生 80%)には至っていません。
- また、アンケートを取った子どもたちの3年前の結果と比較すると、その数値が以前よりも上がっていることが多く、学校や家庭の読書に対する取り組みの成果を感じました。

#### 目標2 不読率(1か月に1冊も読まない子の割合)を下げる

- 今年度の不読率は昨年度と比較して悪化し、小学5年生(23.7%)、中学2年生(29.4%)ともに20%を大きく超えてしまいました。(小学2年生は7.4%)第四次計画の目標としている数値(不読率を下げる;小学生 4.7%、中学生 11.2%)を大きく上回ってしまいました。
- その理由として、コロナ禍が過ぎたことにより、子どもたちの生活が変化したことが考えられます。コロナ禍においては、教室や部屋で静かに過ごすことが求められていましたが、子どもどうしの関わりや一緒に遊ぶ時間が増えたこと等が読書の時間を遠ざけてしまったのではないかと考えられます。下の目標3、一日10分以上の読書の割合が減ってしまったことともつながりが深いと思われる。

#### 目標3 一日10分以上の読書を

- 今年度の数値は、どの学年も昨年度を下回りました。(小学2年生 38.4%、小学5年生 46.1%、中学2年生 40.5%)そのため、第四次計画の目標としている数値(一日10分以上読書をする子の割合;小学生 76.7%、中学生 65.5%)を達成することはできませんでした。

#### 目標4 ファミリー読書デーの認知度アップ

- 毎月1日がファミリー読書デーであることを知っている小中学生の割合は、小学2年生が28.6%、小学5年生が53.3%、中学2年生が52.0%でした。今年度も、第四次計画の目標としている数値(ファミリー読書デーの認知度;小学生 80%、中学生 70%)を達成することはできませんでしたが、中学生は年々認知度が上がっていることがわかりました。

## 2 これからの方向性

### (1) 読書好きなすてきな人に！

- 開成町では、平成 16 年度に第一次開成町子ども読書活動推進計画を策定して取り組み始め、来年度は、第四次推進計画の最終年を迎えます。これからも「読書好きなすてきな人に」をスローガンにし、4つの目標達成に向けて取り組んでいきます。
- そのために、第四次推進計画に定められた、3つの基本方針に従います。
  - ① 子どもが読書に親しむことを支える人づくり
  - ② 子どもが読書に親しむための環境づくり
  - ③ 子どもが読書に親しむための情報収集・発信
- また、次の5つの方策を進めます。
  - ① 家庭 ・読書活動スタートアップ ・読書活動日常化の推進
  - ② 保・幼・小中学校 ・読書力向上 ・読書意欲を高めるための環境づくり
  - ③ 町民センター図書室 ・広報・啓発活動の推進 ・ボランティア活動の充実  
・特別な配慮を必要とする子どもたちへの支援
  - ④ 地域 ・読書風土の醸成  
・家庭で埋もれている地域資料等の有効活用
  - ⑤ 普及啓発の推進 ・「子ども読書の日」ファミリー読書デー等における事業啓発  
・広報・ホームページ等による情報掲載

### (2) 電子書籍について

- 令和5年6月に各小学校に電子書籍を導入しました。

GIGA スクール構想により一人一台のタブレットが整備され、ICT 活用の具体的な取組の一つとして電子書籍を導入しました。今年度は 1,000 冊ほどの電子書籍の中から、1年生から6年生の児童が自由に本を選び、読むことができる環境を整えました。
- 今後も、子どもの健康に配慮しつつ、発達段階や子どもを取り巻く環境などに応じた活用方法を考え、工夫していくことが大切です。

### (3) 第五次開成町子ども読書活動推進計画策定について

- 令和5年3月に文部科学省が第五次子ども読書推進計画を策定し、神奈川県も令和6年3月に第五次推進計画を作成する予定です。それに伴い、開成町では令和7年3月に第五次推進計画を策定していきます。
- そのためには、改めて読書に対する子どもたちの実態等を見つめ直し、今後の目標や方策などについて情報を共有していくことが必要です。